

○3番（枝 史子君） 改めまして、おはようございます。議席番号3番、枝史子です。傍聴席の皆様におかれましては、お忙しい中、足をお運びくださりまして誠にありがとうございます。

まず、改めまして、先ほど田山議員もおっしゃいましたが、今年元日の能登半島地震で被害に遭われた方々に心よりお見舞いを申し上げます。

それでは、議長により発言の許可をいただきましたので、通告に従い一般質問を進めてまいります。私の今回の一般質問の内容は、これから先、境町が町立図書館をつくる際には、計画当初から行政と町民の間でのきめ細やかな話し合いが必要であるとするが、これについて町はどのように考えているのかを問うものです。

まず、今回のテーマを取り上げた理由についてご説明します。実は以前から、境町にも図書館が欲しいという声を何人もの方から伺っています。また、町長も図書館に関する発言を何度かされていたことから、いずれは図書館を建設しようという思いがあるのではないかと推察しております。ただ、現時点では、その時期どころかつくる、つくらないかさえまだ何も決まっていないのに、なぜ図書館をつくる時にはといったテーマを取り上げるのかと思う方もいらっしゃるかもしれません。このテーマを取り上げた理由は、まずどのような図書館をつくりたいのかといった方向性を決めるのは、設計者、行政、利用者、図書館員の4者であり、この4者が対等な立場で話し合って決めていくのだという共通認識を、この図書館をつくと決めた最初の段階で組織づくりの中に盛り込まないと、最終的に、こんなはずではなかったという残念な図書館が出来上がってしまうおそれがあるからです。そのため、まだ何も決まっていない段階ではありますが、いずれ来る将来を見越して、先に質問することが大切ではないかと考え、今回テーマとして取り上げさせていただきました。

先ほど、こんなはずではなかったという残念な図書館というふうに申し上げましたが、私自身、司書でもあるので、図書館に行くと、そのつくりや本の配置の仕方などどうしても目が行ってしまうのですが、そんな司書目線で各地の図書館を見ていて感じるのは、建築としては立派でも、利用者やそこで働く図書館員の使い勝手についてあまり考えられていない図書館が決して少なくないという残念な状況が見てとれます。

幾つか例を挙げますと、例えばデザインに凝り過ぎて利用者に危険を及ぼすおそれがある図書館というものが実際にあります。まず、吹き抜け構造がある図書館での物の落下事故というものが現実起こっております。私が実際に訪れたとある図書館では、下にいる人が危険なので、2階、3階に上がるときにはスマホをポケットの中に厳重にしまって絶対に取り出さないでくださいと厳重にアナウンスをするところもございました。そこまで注意するなら初めから吹き抜けにしなければよかったのになんて内心思ってしまうのですけれども、そういうようなところもありました。

また、頭の上に、これ地震のときに落ちてきたらどうしようと怖くなるような巨大なオブジェがあるところもあります。また、内装の本棚の配置に凝り過ぎて、児童コーナーの一角が受付カウンターからの完全な死角になってしまうようなところもありました。これの何が危険なのかというと、万が

一そこに不審者が潜んでいても分からないということです。そんなの職員が常に巡回して警備すればいいとおっしゃる方もいらっしゃるかもしれませんが、そこまで人員に余裕のある図書館はほとんどないと思います。それ以前に、そのような本棚の配置にしなければ、もっとシンプルで分かりやすいものにすれば、巡回警備のための人員を1人余計に配置する必要もないのです。ほかにもコストの問題として、これどうやって掃除するのとか、これ電球どうやって取り替えるのという手入れに手間がかかり過ぎる構造のため、毎年毎年維持管理に膨大なコストがかかる図書館も存在します。

また、先ほどもちょっと取り上げましたが、吹き抜けがあるために余計な冷暖房費がかかる図書館というのもあります。この吹き抜けについては、これから司書になろうとする方が勉強する図書館建築の教科書の中でわざわざ、このような注意点があるというふうに解説がされています。それは、吹き抜けは、騒音や空調に問題があるということ、さらに間取りの変更や修繕などがあった場合に柔軟に対応できなくなるという問題もありますよということを丁寧に解説してあります。それなのに、注意喚起がしてあるにもかかわらず、実際にはこの吹き抜けを採用している図書館は少なくないと感じております。

また、本の日焼けや劣化の問題ですが、直射日光は本を日焼けさせてしまうということは、図書館員でなくても何となく理解していただけたと思いますが、なぜか図書館を壁一面ガラス張りにしてしまい、案の定、本が劣化してしまったという事態もあちこちの図書館で起こっています。このガラス張りは、災害時にも危険であり、とある大学図書館では、台風で大木が倒れ込み、図書館のガラスの壁を突き破ってしまったという事故が起きました。そして、もちろん地震のときの危険性もあります。また、障害者基本法があるにもかかわらず、足の悪い人が使うことを全く想定せず、余計な段差を館内につくっているという図書館もあります。

このようにざっと挙げただけでも使い勝手の悪い図書館の例というのは幾つも存在します。そして、これらは著名な建築家が設計していたり、実際に〇〇建築賞という賞を受賞していたり、高評価を得ていることも多いです。けれども、先ほど申しましたように、利用者やそこで働く図書館員への配慮に欠けた構造になってしまっているということは、恐らく設計以前の段階で利用者や図書館員の意見や知見がきちんと建築家に伝わっていないからではないかと推察されます。であるならば、ほかの図書館の失敗を繰り返さないためにも、この先、境町で図書館をつくるとなった場合には、どんな図書館にしたいのかという共通認識を、先ほど申しあげました設計者、行政、そして利用者と図書館員の間で持つておかなくてはならないのではないかと考えています。なぜなら、出来上がってしまった後のことまでは、設計者は責任を負ってくれるわけではないからです。幾ら維持管理コストがかかろうが、幾ら本が焼けようが、設計者には関係がないのです。

例えば車を1台買うとして、すごく格好いいのだけれども、リッター4キロしか走らない車を勧められたら皆さんどう思いますか。たまにしか乗らない車ならどうにかなるかと思いますが、車がないと生活できないようなところでリッター4キロはきついなと私だったら思います。しかも、それが

例えばツーシーターだったとしたら、うちの家族を考えると、うちは4人家族だから無理だなとか、それぞれの家族構成やお財布の具合を考えて判断しますよね。同じお金を払うなら、もっと燃費のよいファミリーカーがよいとか真剣に考えるのではないかと思います。それと同じで、私たちの税金を使ってつくり、私たちの税金を使って維持管理をしていく施設なのだから、設計の段階あるいはその前にも、私たちはこういう図書館が欲しい、この程度の維持管理費だったら負担し続けることができるといった方針を考え、みんなでそれを共有することが必要になるのではないかと考えます。

そして、反対に、このような最初の段階で共通認識づくりを怠って、例えば行政が設計者に丸投げをしてしまったりとか、そのような図書館をつくってしまうと、先ほど述べたような使い勝手の悪さが次々に露呈し、最終的には町民の皆さんの足が遠のく残念な図書館になってしまうというのが私の考えです。実際に、筑西図書館を設計された益子さんという方がいらっしゃるのですが、その方がご自身の著書の中でこのようなことをおっしゃっています。建築物は建築をつくるためにお金を出す人と、つくられた建築を使う人がいる。建築家が建築物をつくるときに、お金を出す人の了解のない建築物はあり得ないし、使い手の意図を無視しては建築は成り立たない。このことは個人の住宅でも公共建築でも同じで明らかであるはずなのに、公共建築の場合はそれが分かりにくくなっています。だから、公共建築は誰がどのように使うのかという使い手の論理を大事に考えなくてはいけない。このことは、行政だけでなく僕たち建築家も心しなければならないことだと本の中でおっしゃっています。

以上のようなことから、町民の皆さんが便利に使い続けられる、もっと言えば町民の皆さんに愛される図書館をつくるには、企画立案の段階から行政側と町民の間でのきめ細やかな話し合いが必要であると考えております。これについて町の見解をお聞きします。

以上、1項目1点の質問について答弁を求めます。

○議長（倉持 功君） ただいまの町立図書館についての質問に対する答弁を求めます。

町長、橋本正裕君。

〔町長 橋本正裕君登壇〕

○町長（橋本正裕君） それでは、枝議員さんのご質問にお答えをします。

当たり前のことですよね。何か勘違いされているのかなというふうに思うのと、もう一つは、もしかしたら僕がいなくなった後のことを言ってくれているのかなというふうに思うのですけれども、普通当たり前にコストを考えてやるのが、今全部そうですね。議員の皆さん分かっているとおり、全てコストを計算して、電気代から水道代、しかもさらには今エアコンまで、セントラル方式というのをやめてくれと。公共施設というのはみんなこれなわけですよね。これをやめてくれと。もう個別にして、壊れたところだけ替えるような、さらには昔あった賃借料のやつも全部今見直して、どんどん、どんどんコストカットをするようにやっているわけです。

そんな中で、多分勘違いされているほうからの1点から話をさせていただくと、隈研吾さんの建物は、維持管理費がかかると思っている人がいっぱいいるわけです。実際に我々は、隈研吾さんの建物、

一切今直していないですよ。何年前に建てました、もう。五、六年前に建てましたよね。一切やっていないですよ。ほかの自治体のやつは、言うことを聞いて建てているわけです。言うことを聞いて、ただデザイン性を基に造ってしまうわけですよ。だから維持管理費がかかるわけです。僕は維持管理費がかからないように、こちらから言うわけです。例えばといをつけてくれ。デザイン性からいって、といがないほうがいいのかからといってつけていないわけです。といがないと傷んでしまう。だから、といをつけてくれ。これは今もといがついていますよね。例えばS-L a b 1にも、といはつけてもらいましたし、それから、今度のウナギの施設も見てもらえば分かります、ほとんどデザイン性があったとしても、ほとんど普通の施設と変わらない維持管理費にしてもらっています。

なので、一つ重要なことは、当たり前のことですよ。デザインがいいから維持管理費かかるのが当たり前、そんな考え一切ないですから、僕は。だから、何かもしかしたら勘違いされているのかなという質問だとすれば、そんなことは一切あり得ない。デザイン重視で、それで人を呼び込むなんて考えたことないですから。デザインもいいかもしれないけれども、その中で必要最低限でやっていく、さらには建設コストも落としていく、それが僕の考えなので、全くちょっと僕の考えとは一致しない話なので、僕の後になった人のことに対して言っているのかなと思います。

だって、普通図書館も、架空の話なので、本当は架空の話をしてもしようがないのですけれども、普通は在り方検討会とかをつくって、さらにはそこに議会の人も住民の人も入ってもらい、さらにはコンペとかをやって、それで建物が決まって、そのつくっていく中で利用者の皆さんとも喜ばれる施設、そのためにはいろんな図書館を見に行つて、いいところを見に行つて、しかも住民からも喜ばれている、使われているものをまねしていく。新たに新しいものをつくるとか、新たにこうだというような考えでつくるから失敗するわけです、建築って。だから、そんな考え、僕は一切持っていないですから。僕に質問するのは、ちょっと間違っているのかなと。僕ではない人に質問してもらったほうがありがたい、当たり前ですよ、住民が来ないものをつくったって意味ないではないですか。今僕らがやっていることというのは、財政がひどかったわけですよ、10年前に。もう1,741の自治体で後ろから29番目ですから。何か事あるごとに議員の皆さん、住民の皆さんが言ったお金がないという町だったわけです。ここ目の前でもやってくれといっても、いやお金がないからと。それが10年前です。それを何とかするために議員の皆さんとも町民の皆さんともやりながら、今改善をしてくれているわけです。だから、目立つものをつくりたいとか、そんなの一切ないわけです。財政を何とかしたい、人口を何とかしたい、そして職員を何とかしたい。その中で改善をしてきたら、逆に皆さん提案してくださいよという話なわけです。

だから、ちょっと話がずれると、猿島と森戸の小学校の統廃合の問題も、僕は一切別に無理強いする必要はないですよと、住民の皆さんが反対したらやめますよと。全然そうやって言っているわけです。住民の皆さんに議員さんたちに聞いてもらおう。地域で聞いてもらおう。それでみんなの合意形成の下にやっていくと。僕は1人でも反対がいたら、ではその1人のためにも政策打つわけです。議長に

も聞きました。そうしたら、いや、森戸地区とかでは全然反対ないよと。2キロのスクールバス、やってくれたから、あれをそのまま継続してくれるのだったら統廃合してもらったほうがいいという親御さんがほとんどだよと言われるわけです。でも、そうではないという質問が来るわけです。僕は、ではどうしたらいいのだろうとなるわけです。では、地元の皆さんの意見に沿いますよというわけ。僕は右だといって、右だなんてやらないですから。実際に皆さんと相談しながらやっていくわけです。

だから、図書館についても当たり前ですよ。こんなお金かけてやるものに対して無駄なものをつくってもしようがないから、だから今できていないわけです。必要だと思っても、財政の問題がある、人口の問題がある、やることがある。僕らの優先順位からしたら、給食センターをやらなくてはならないわけです。もう47年以上たっていて。毎回毎回直して、今回も直すのなら何億円もかかると言われているのです。その物がですよ、建物ではないですよ。中のスチームだったり、それ全部もう今ごまかしながら使っているのです。だから、一番子供たちの安心安全、さらには求められているものからいったら、議会の皆さんと相談して、何ですかと相談してやっていくのが僕は議会だし役所だと思っているわけです。

なので、一応やるともやらないとも言っていない図書館の話がされるときに、僕にされたのでは、普通に当たり前のことですから、今、枝さんが言ったのは。そんな建物ばかり造って、お金ばかりかける、そんなばかな行政、今頃やっていたら破綻してしまいますから。当たり前のことを質問されているので、僕ではない人に質問していただいて、僕はちゃんと、僕のやっている間はちゃんとやるのは当たり前ですから、だから今できていないというのが分かりますよね。そう考えない人だったら、今頃やっているでしょう、借金もして、ばんばんして。1個ずつ、1個ずつ改善していく中で、一番何が必要かを考えて、それを議会の皆さんと、こういうのをやるのだけれども、こういう補助金つくのだろうけれども、どうだろうという相談してやっているのが今ですよ。だから、やっぱり外から見ると勝手に何かいろんな施設ができて、勝手に何か隈研吾がやって、維持費もかかっているのではないかと思うわけです。でも、そうではないということをやっぱり議員さんたちには住民の皆さんにも伝えてもらって、そういう中で求められているものも順に今やっているからねと。そういうときにはこういうふうにちゃんと委員会つくって、住民の皆さんの意見を聞きながら、しかも望まれるようなものをつくっていくよと。だって、場所だって難しいではないですか。財源だって難しいではないですか。そういったことをやっぱり議員さんが住民の皆さんにちゃんと説明していく、これつくるのに幾ら幾らかかるのだよ、幾ら幾らかかるから、今ちょっとお金がないからできていないのだよ。だから、今必要なもの、稼ぐものをやっているのだよ。ようやく境町も大家になって、年間に1億5,000万入ってくるようになりました。非常にありがたいことですよ。今まで出す一方でしたから。

だから、やっぱりそういう目の前にあることを一つ一つやった中で、住民の皆さんに説明していつて、最終的には住民の皆さんが欲しがるといえるような、稼がない施設ですけれども、やっぱり住民の民度を上げていくためにはやっぱり図書館って必要なわけですよ。それで図書館になっていくというところ

ろなので、そこは僕に質問するというよりは、そういう人に質問してもらったほうがありがたいので、今ちょっと質問されても、ちゃんとやるしか言えないので、しかも当たり前のこととしか言えないので、何ともならないなというふうに思うし、逆に教えると、開成町の町長さんは、図書館つくるために全国を歩いているのです。武雄の図書館から北海道まで。海外も歩いているかもしれない。その中でいいもの、それは見た目とかではないです。運営がいいとか、住民からの評判がいい。それを全部精査してブログとかに書いているわけです。その開成町の町長さんにもどうなのがいいのだろうと相談しているぐらいですから、全然住民無視で建てるなんていうことはあり得ないというふうに本当は思ってもらったほうがありがたいなというふうに思います。

以上です。

○議長（倉持 功君） ただいまの答弁に対し、質問はございますか。

枝史子君。

○3番（枝 史子君） ありがとうございます。

質問ではないのですが、町長のほうから当たり前という言葉が聞けて安心したというか、実際に建物を先に建ててしまっって、その後に館長を呼んで図書館をつくり上げていったというところも私も聞いており、そのようなことになってしまったら、本当に建物ありきで始まってしまうと、後からどんどん、どんどん不具合が出てしまうということもあって、そういう懸念があったものですから、一番最初、何もない段階からそのような、町長がどのように考えているのか、これからどう進めていきたいかというのが聞けて安心いたしました。

以上で私の一般質問を終わりにします。ありがとうございます。

○議長（倉持 功君） 以上で枝史子君の一般質問を終わります。